

会 議 名	第1回 港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成30年7月24日（火曜日）午後6時から午後7時30分まで
開 催 場 所	港区役所 9階 915会議室
委 員 員	（出席者）阿部委員長、田中委員、田角委員、有賀副委員長、西川委員
事 務 局	麻布地区総合支所管理課 上村、駒井、川上 子ども家庭課 多田、家政 保育課 山越、佐藤
会 議 次 第	1 開会 2 委員委嘱 3 委員の紹介 4 委員長選出 5 議題 （1）公募要項について （2）第一次及び第二次審査基準について 6 今後のスケジュールについて 7 閉会
配 付 資 料	資料1 港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会設置要綱 資料2 委員名簿 資料3 公募要項（案） 資料3-2 元麻布保育園の職員配置基準 資料3-3 入所審査会・職員体制全体像 資料3-4 元麻布保育園の想定職員数 資料3-5 元麻布保育園の開設準備 資料3-6 開設準備仕様書 資料4 公募要項【様式集】（案） 資料5 業務基準書 資料6 案内図及び平面図 資料7 選考の進め方（審査フロー図）（案） 資料8 第一次審査表（案） 資料9 第二次審査表（案） 資料10 今後のスケジュール
会議の結果及び主要な発言	
	1 開会 （子ども家庭支援部長挨拶） 2 委員委嘱 （委嘱状の交付） 3 委員の紹介 （自己紹介） 4 委員長選出 5 議題

【A委員】	審査表の医療的ケア児や障害児の受け入れ実績という項目について、重要な項目だと思いますが、この部分、進んでいないだけに、これを入れたときに、予想としてどれぐらいの応募事業者があるか少し気になりますが、この辺についてはどのようにお考えですか。
【事務局】	実際に、医療的ケア児・障害児専用の保育園というのは、おそらく例としては多分ないのではないかとこのふうには考えております。ただ、個別個別、お一人だけとか、そういう受け入れの実績があるのであれば、それは知識、ノウハウというものはあるのではないかとこのふうには考えておまして、お預かりをした実績があるのかどうかというところを1つ評価の視点としていきたいなというところですよ。
【A委員】	そうすると、保育士も、当然ながら医療的ケアの保育士ということは考えられますか。
【事務局】	公募要項の職員配置のところでも申し上げますと、最終的な保育士と看護師の割合についてはおおむね1対1ぐらいは必要ではないかとこのふうには考えております。といいますのは、保育士の方で医療的なケアが行える範囲というものが限定的というところもありますので、やはり看護師はある程度の人数が必要であるということで、このような配置基準として考えているというところですよ。保育士は保育士の役割、看護師は看護師の役割をあわせながら、双方で一体となってクラス運営をしてもらいたいという趣旨で、このような配置で考えております。
【A委員】	看護師には医師のサポートがついているのですよね。
【事務局】	そうです。この園は基本的には医師は常駐ではないので、通常の保育園の場合は嘱託医という健康診断をする先生がいますが、それ以外に相談医という形で、区に相談ができる医師を確保したいと考えております。
【B委員】	審査表について、1つは、事業運営のところ、全体計画とか個別計画、指導計画がありますが、医療的ケアを受けている子供や障害児も含めて提案されるのでしょうか。全体的な計画の中には、当然、障害や医療的ケアのあるお子さんを含めた保育では、クラスに応じての個別の指導計画はまとめていきたいと思っております。
【事務局】	公募要項で申し上げますと、様式はほとんど自由記載に近い状態なので、保育基本方針、全体計画、個別計画及び指導計画の様式の中で、何か少しそこを付記するというような形で対応ということではいかがでしょうか。
【B委員】	すみません、審査表でもう一点ですけれども、保育理念と保育の基本方針で、それから法人の事業計画、それでまた保育基本方針となっているようですが、この基本方針の扱いを明確にしたほうが向こうは答えやすい。
【事務局】	基本方針というところが2つ重なっていたりするのでわかりづらいというご指摘をいただきましたので、そこは委員長と調整をさせていただいてよろしいでしょうか。
【委員長】	そこは確認させていただきます。
【A委員】	保育所保育指針の改定にあった小学校との関係について、福祉的なものとか、新しい課題、外国籍も含めて、大変いろいろな課題を盛り込まれて画期的なんですけど、そのあたりはどこで考えましょうか。
【事務局】	保育の中身がとても影響を受ける部分です。それ以外には就学前の子供たちと小学校との交流ですとか、2つの部分からなっていると思うんですけども、育てる力のポイントが変わってきているので、そのあたり、どこで受けとめたらいいのかなと思います。
【事務局】	もし入れ込むとすると、やはり事業運営のところ、少し触れるかどうかというところかと思っております。
【D委員】	例えば、保育理念や基本方針といったことについての記述を含むという、それは必須になるかどうかは難しいですけども、具体的に何をやるかではなくて、その改定に対しての、法人なりの思うところ、考え方というのを少し記

	<p>述をしてもらうというところでも、何となく考えていることは把握できるのかなという気はするんですけども。今、みなさんのおっしゃる中身だと、1つ項目を起こすよりは、大まかな理念、方針の中で述べていただくというほうが今の段階では適切なのかなという気がします。</p>
【A委員】	<p>1つは、先ほど出ましたけれども、事業運営の中に、小学校との交流というのを少し入れるようなサジェスジョンをする。</p> <p>あと、さっきおっしゃったように、もう一つの考えとしてあり得るのは、保育理念か、保育の基本方針か、理念あたりのほうがいいのか、保育の基本、このあたり、小学校に上がる前までに育てたい力というのをしっかり記入するようにと、これでいいかもしれないですね。保育園に行っている子ども、幼稚園に行っている子ども、小学校教育につなげるためには、幼児期に共通に育てておかななくてはいけない力があるという考え。それを少し意識してもらうと。そういうように、小学校の前までに育てたい力。質問があったら、保育所保育指針を見てくださいと言えば、その項目が出てきますので、わかりやすいと思います。</p>
【D委員】	<p>そこは事務局と委員長のほうで、どういう文言を入れ込むかというところを調整していただければと思いますが、いかがですか。</p>
【事務局】	<p>では事業運営の保育理念、基本方針及び法人の事業計画の中で少し触れられるような形で、委員長と事務局のほうで調整するというところでよろしいでしょうか。</p>
【委員長】	<p>では、そういうこととお任せいただいてよろしいですか。</p>
【D委員】	<p>お願いいたします。</p>
【委員長】	<p>他にいかがでしょうか。</p>
【D委員】	<p>1点よろしいでしょうか。選考方法で、第一次審査をして上位2～3者程度を通過者とするというところですが、通常、プロポーザルとか、こういった選考をする場合、区のほうで、事業者の質を担保するということから、6割ぐらい点数をとってればという最低基準を定めるのが通例なんですけれども、この委員会の中で、次に進める基準について審議しておきたいと思うんですが。</p>
【A委員】	<p>ここが非常に先駆的な分野だというのは委員の先生方もご承知でいらっしゃるから、ここで、このぐらいなら頑張ってもらえるだろうと思えるのがここで確認されれば。ハードルをそんなに上げようもないぐらいに大変困難な課題に挑戦しているというふうには思いますね。これ、20人ぐらいのお子さんたち、医療的ケアを要するお子さんたちが保育の場にいられるというのは画期的なことですから、何とか支援したいと先生方は思っていると思いますが、どうでしょうか。</p>
【D委員】	<p>そういうことがこの委員会としては議論になっているということ踏まえて、きちんとそういう意識を持って選考しているということが確認できればそれで十分です。</p>
【B委員】	<p>採点表ですけども、例えば利用者満足度への具体的な取組とか、施設の効率的・効果的な管理運営とかという、この場合に、書き方としては、医療的ケアの障害児の子たちに向けての取組も書けるし、ほかの子供たちも書けますね、利用者満足度の具体的な取組。両方について書いてくれとかというのは別に明記する必要はないですか。これだけの量がありますから、質問するよりは書いておいてもらったほうが点数化するのにはいいかなと。今までとは違うので、少しそういうふう思ったんですけども、その両方書けますか。</p>
【事務局】	<p>事務局から考え方というところで、この部分については、まずは認可保育園の運営であるという前提で、その利用者全ての方に対する満足度をどういうふうに事業者が提案してくるかというところで、あえて医療的ケアのクラスという分けは特にせずに、自由に書いていただくということで考えたところがございます。</p>
【委員長】	<p>プレゼンテーションで先生のほうからアプローチしていただくのも大事な</p>

	<p>と思います。</p>
【A委員】	<p>一体的な施設運営というのが重要なキーワードになっていると思いますけれども、この「一体的な」というのはどう捉えたほうがいいですか。</p>
【事務局】	<p>事務局のほうとしましては、一体的な施設運営というというのは、内部の交流というところも含めた統合のメリットという、そういう考え方をイメージしています。</p>
【D委員】	<p>プレゼンテーションの出席者も決めておきますか。</p>
【A委員】	<p>施設の責任者には必ず出席していただいたほうが良いと思います。</p>
【委員長】	<p>そこはここで決めていい部分だと思います。</p>
【事務局】	<p>公募要項で、指定管理者候補者の選考という項目を既前列記させていただいておきまして、二次審査には提案書で既に予定しております園長及び副園長の方を実際に出席していただいて、当然プレゼンテーションですとか、選考委員の皆様からの質問に答えていただきたいと、事務局としては予定しております。</p>
【A委員】	<p>副園長は3名いませんでしたか。</p>
【事務局】	<p>園長と医療的ケア児・障害児クラスの副園長1名を想定しています。</p>
【A委員】	<p>1名ですね。わかりました。</p>
【D委員】	<p>これは、出席して、自らプレゼン、それから質疑応答をしていただきたいという意味までこれで読めますか。出席してくださいと。来るけれども、実際のプレゼンは違う人がやるとかというようにも読めますよね。</p>
【事務局】	<p>一次審査が終わった後、第二次審査の通知で出席者や説明者、資料等細かい通知をさせていただきます。一次審査の後の選考委員会でご意見を皆さんからの意見を受けて、事務局から個別にさらに通知をさせていただいています。</p>
【委員長】	<p>それもあるということでお含みおきいただくということでもよろしいでしょうか。一応プレゼンの本筋は、必ず園長は来てくださいということですね。ほかにいかがでしょうか。その他、特段のご意見がなければ、公募要項、第一次、第二次審査表を決定いたしますが、よろしいでしょうか。 (全員承認)</p> <p>それでは、決定といたします。本日の審議での皆さんのご意見をもとに、修正していきたいと思います。最終的な文言の調整については委員長・副委員長に一任ということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。 (「はい」という者あり)</p>
	<p>6 今後のスケジュールについて 今後のスケジュールについて説明</p>
	<p>7 本日の委員会を終了します。</p>

会 議 名	第2回 港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成30年10月1日（月曜日）午後6時00分から午後7時50分まで
開 催 場 所	港区役所 9階 913会議室
委 員 員	（出席者）阿部委員長、田中委員、田角委員、有賀副委員長、西川委員
事 務 局	麻布地区総合支所管理課 上村、駒井、川上 子ども家庭課 多田、家政 保育課 山越、佐藤、平田
会 議 次 第	1 開会 2 財務状況等分析結果について 3 議題審議 議題1 第一次審査通過事業者の決定について 議題2 第二次審査について（プレゼンテーションについて） 4 今後のスケジュールについて 5 閉会
配 付 資 料	資料1 財務状況調査・分析報告書 資料2 資金計画調査・分析報告書 資料3 第一次審査（書類審査）集計表 資料4 第1回港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会会議録 資料5 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）審査表 資料6 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）方法について
会議の結果及び主要な発言	
【委員長】	1 開会 2 財務状況等分析結果について それでは、次第の2番でございます。公認会計士の先生から、財務状況分析結果のご報告をお願いいたします。
【公認会計士】	（財務状況調査及び資金計画調査分析報告の説明）
【D委員】	その他経費についてどのように評価していますか。
【公認会計士】	B事業者、C事業者はその他経費に法人の利益が含まれていると思う。A事業者は利益の考え方が気になります。法人の利益としてあまり見込んでいないために収入規模が小さくなっているのかもしれないです。
【C委員】	B事業者のうち、NPO法人の収支が非常に良いと思うが、補助金を貰いながら億単位の収益というところが気になります。
【公認会計士】	法律上ダメとは言えませんが、法人の主旨として良しとするかどうかは疑問として出てきて当然だと思います。
【委員長】	収支の妥当性を明確にする必要があると思います。
【D委員】	ヒアリングで各事業者に確認するというところでいかがでしょうか。
【委員長】	そうですね。妥当性さえ確認できれば。
【事務局】	二次審査の際、各事業者から確認資料を提出していただきたいと思います。
【委員長】	他に質問がなければ、財務状況等の報告書は終わりとさせていただきます。

3 議題審議

議題1 第一次審査通過事業者の決定について

【委員長】 まず、議題1、第一次審査通過事業者の決定についてです。事務局から本日の流れについてご説明をお願いいたします。

【事務局】 (事務局説明)

採点項目ではありませんが、障害者の法定雇用率について、3者とも達成できていなかったことから、事務局で各法人の意向を確認し、達成に向けての努力をするという確認をしておりますのでよろしくお願いいたします。

【委員長】 事務局からの説明は終了いたしました。

それでは、第一次審査について審議いたします。まず、採点の結果について、各委員からご講評をお願いいたします。

【B委員】 A事業者が1位、C事業者が2位、B事業者が3位と評価しました。

A事業者は、類似施設の運営実績において医療的ケア児を受け入れている実績がある。グループ内に小児科医が6名在籍して全面的にサポートしているところを評価した。保育所保育指針の改定についてどこまで意識できているか、他の事業者よりは意識できている気もしましたが、そこは気になりました。

事業運営面については医療面のサポートが充実していると思いました。医療機関との連携について予定を記載したもので確実なものか気になりました。地域の特性を踏まえた健全育成についての記載が薄いと思いました。グループウェアやブログなどを活用して職員間や保護者と情報共有するのは良いと思いました。緊急時の連絡についてもグループウェアを使用して口頭だけではなくきちんと記録に残る仕組みなので良いと思いました。

B事業者は、副園長が特別支援学校での経歴があるのは非常に良いと思いますが、それ以外の経歴が少ないので、現役の法人での経歴のみを書いているのか、過去の経歴がないのか、聞いてみないとわからないと思います。職員の募集について、就職フェアに出展してということが書いてありますが、どこもそれだけで人が集まらずに苦労しているところで、その部分を前面に出してくるのは不安があります。

C事業者は、副園長で看護師の経験があるのは非常に良いと思いますが、園長のキャリアはすごいけれども給料は高いし、というところでどんな根拠のかなと思いました。看護師の研修やプライバシーマークの取得については良いと思いました。

1位と2位の差はほとんどありません。

【C委員】 C事業者が1位、B事業者が2位、A事業者が3位と評価しました。

金額の差がさまざまなことに影響してしまうのだろうなということは大前提としてあることをもとにお話ししたいです。

A事業者は、医療的ケアでこれだけの人数、20人を想定してこれだけの看護師で運営するということがなかなか見えない部分があるので、実際には難しいのではないかと感じます。職員体制について確認したいです。いくつかの医療機関と連携とありますが、園の中でどれだけきっちりできるかというところが見えてこなかったです。

保育園の安全対策及び危機管理体制というところで、医療面ではSIDS(突然死)というところが気になるんですが、医療的ケアばかり気にしていて、C事業者以外はSIDSのことに触れられていなかったことが引っ掛かりました。

B事業者は、共同提案というところで医療的ケアはしっかり対応できるように見えていますけど、3つの法人の関係性がはっきり見えないところが気になりました。医療的ケア児・障害児の保育園と大規模の保育園が隣り合わせであるということは保育士と看護師の関係性が重要ですけど、そこがなかなか見えないというように感じました。

C事業者は、全体的に無難なところではありますが、今運営している保育園

<p>【E委員】</p>	<p>がどのように運営されているのかがいまいちよくわからないので、インパクトはあまりありませんでした。</p> <p>A事業者が1位、C事業者が2位、B事業者が3位と評価しました。</p> <p>A事業者は、医療的な連携が多く、期待できます。医療的ケア児や障害児という区としても初めてお預かりする子どもの体制としてそういった連携が期待できるかなと思いました。採用に関しても専門部署の設置やコンサルタントの活用、法人内外の研修が充実していることから、人材の確保と育成に努めていると感じられました。</p> <p>B事業者は、全体的に抽象的な記載が多く、保育園全体として200人の子どもをどうやって見ていくのかというところまで書類上では読み取りづらかったです。</p> <p>180人規模の職員に非常勤が多かったというのが、シフトの関係もあるのでしょうけど体制的にどうなのかと感じました。</p> <p>C事業者は、経費的に高いイメージがありました。職員もたくさんいて、経費もそれなりに積めば良い人材が集まってくるんでしょうけど、恒常的に運営していかなくてはいけないということで、経費面というのも第二次審査で確認するという点でもありましたが、細かいところまで読み取りづらかったので辛目に評価しています。</p>
<p>【D委員】</p>	<p>A事業者が1位、C事業者が2位、B事業者が3位と評価しました。</p> <p>B事業者は、具体性のない記述が随所に見られました。特に虐待の予防ですとか危機管理体制などの安全に係る分野の記述が荒く、個人的に評価できませんでした。A事業者とC事業者は具体的に記述してくれたと思います。</p> <p>C事業者は、大規模施設や病児保育の経験があまりないと思われまして、その不安が人員体制等の準備経費に現れたのではないかと感じました。医療的ケア児・障害児クラスの人員がとにかく多く、準備経費が他者と比べて4倍程度かかっていることもありますので、行政面からいくと最小の経費で最大の効果という大原則がありますが、3者のうち2者が同等の金額でできるというなかでC事業者は過剰ではないかと考える部分もあります。</p> <p>各評価項目を細かく見たつもりですが、相対的にA事業者が一番良いと評価しました。</p>
<p>【A委員】</p>	<p>C事業者が1位、B事業者が2位、A事業者が3位と評価しました。</p> <p>200名規模の保育園を運営するというのが環境面もありますので大事なかなと思いました。</p> <p>A事業者とB事業者からはこの人数の子どもたちを保育するイメージが感じられず、不安要素となりました。0歳児からの扱いが非常に大事ですけども、この辺も具体性が欠けていると思いました。</p> <p>A事業者は、医療的ケアをやっているように見えますけど、ケアではないのではないかなと思いました。送迎面での扱いはB事業者とC事業者に比べてはるかに慣れてるように見えますけど、ケアとは違う側面のように感じます。介護事業を手広くやっていることはわかりましたが、医療的ケア児に関する経験はあまりないんじゃないかと、大規模園のことや0歳児の扱い含め不安を残しました。</p> <p>3者とも不安だったのが、職員の定着率向上です。新しく職員をどう確保するかについて展望があまりないのではないかと、しっかりと聞かなくてはいけないかなと思いました。中身的なケアについてはまだまだこれからの課題と受け止めています。</p> <p>C事業者は、経費の問題はありましたが、地域との関係性はよく具体性を持って答えているというところが突出していました。医療的ケアにおいて目立ったところはないですが、最低限のケアの認識は非常に強いと受け止めました。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>各委員からの講評は終わりました。</p> <p>それでは、事務局から結果の発表をお願いいたします。</p>

【事務局】	A事業者872点、B事業者791点、C事業者874点ということで確定させていただきます。
【委員長】	それでは、第一次審査の通過者について2～3者ということですが、逆転の可能性、最低限の基準を満たしているかというところもありますけれども、ご意見ございましたらお願いします。
【B委員】	時間が限られていますけど、極端な見方をするとまだ逆転の可能性があるのであるようにも思えます。
【D委員】	今回港区で初めてのケースでより良い事業者を選びたいということが前面に出てくるのであれば、逆転の可能性もなくはない、ということで3者やる方が悔いは残らないと思います。
【委員長】	やはり初めてのケースでいろいろ聞いてみなければわからないだろうということで理解しました。
【委員長】	多少難しい状況があるということをふまえて、公平性のもとに安定感のある業者をきちんと選ぶということは当然のことですので、3者通過ということではよろしいでしょうか。
【委員長】	(全委員承認) それでは、応募事業者3者について、第一次審査通過といたします。
【事務局】	議題2 第二次審査について（プレゼンテーションについて）
【委員長】	続きまして、議題2、第二次審査についてでございます。事務局からご説明をお願いいたします。
【事務局】	(第二次審査の方法について説明)
【委員長】	それでは、第二次審査について審議をいたします。ご意見ございましたら、よろしくをお願いいたします。ないようでしたら、第二次審査の審査方法を決定いたします。
【委員長】	(全委員承認)
【委員長】	4 今後のスケジュールについて 今後のスケジュールについて確認
【委員長】	5 閉会

会議名	第3回 港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会
開催日時	平成30年10月9日（火曜日）午後6時00分から午後8時50分まで
開催場所	港区役所 9階 研修室
委員	（出席者）阿部委員長、田中委員、田角委員、有賀副委員長、西川委員
事務局	麻布地区総合支所管理課 上村、駒井、川上 子ども家庭課 多田、家政 保育課 山越、佐藤、平田
会議次第	1 開 会 2 議題審議 議題1 第二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）について 議題2 指定管理者候補者の決定について 3 閉 会
配付資料	資料1 第3回港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会タイムスケジュール 資料2 第二次審査選考基準・採点表 資料3 第一次審査（書類審査）採点集計表 資料4 第2回 港区立元麻布保育園指定管理者候補者選考委員会会議録 資料5 プレゼンテーション資料
会議の結果及び主要な発言	
【委員長】	1 開会 2 議題審議 議題1 第二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）について まず、議題1、第二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）についてです。事務局からご説明をお願いいたします。 （事務局説明） （B事業者入室） （プレゼンテーション）
【B委員】	医療的ケア児・障害児と健常児ですとか、それぞれのスタッフ等の一体的な保育で気を付けたいところはありますか。
【B事業者】	今まで、法人独自で医療的ケア児をお預かりしたケースがありましたが、看護師等の専門的なアドバイスは重要なものでしたので、元麻布保育園でも同じように展開していきたいです。 ただ、今回は違う法人と共に作り上げていくことになるので、両者のコミュニケーションが必要となると思います。
【C委員】	法人で連携して作り上げていくということについて、これまでに何かやってきたことがあれば知りたいです。
【B事業者】	元々、1つは姉妹関係にある法人で、法人同士の付き合いや研修を一緒に企

	画する等していました。
【C委員】	200人規模の運営について、0歳児を預かることへの安全対策についてあまり記載されていませんでしたが、何かありますか。
【B事業者】	まず、入園の段階で保護者と勉強会をし、看護師を中心に慎重に安全対策を検討します。
【E委員】	0～5歳児の保育士について非常勤の方が多いかなと思いますが、通常、他の園を運営する際もローテーション等からこのような形なのですか。
【B事業者】	実際にはトレーニングを受けた正規の職員が見ますが、長時間の保育を考慮すると非常勤を使わざるを得ません。抜けがなくローテーションを組み立てるためです。必ず正規職員がいてその補佐的に入る体制をとります。
【E委員】	送迎について、医療的ケア児等の送迎の経験はありますか。
【B事業者】	すべての園児ではありませんが、医療的ケア児を受け入れているすべての園で、状況に応じて送迎を行って来ました。
【D委員】	元麻布保育園の運営について課題はどのように考えていますか。
【B事業者】	通常の認可保育園の入園スキームと医療的ケア児・障害児では仕組みが違いますので、入園の際は区と事業者がコミュニケーションを密に取って入園を決めていくというのは新しいことですので、新しいチャレンジだと思っています。 もう一つは、200人規模の保育園で本当にインクルーシブ保育ができるのかということが難しいと思いますが、医療的ケア児を理解している団体と自負していますが、しっかりとパートナーシップを組んで良い環境を作っていかなければいけないので、決して簡単なことではないと思いますが、我々ならできると思います。
【D委員】	今貴社が運営されている園との違いは何だと思いますか。
【B事業者】	今まで運営してきた障害児保育園は、「障害児保育園」という言い方をしていますが、使っている制度は障害児の法律に基づいた障害児の制度です。1時間から2時間の児童発達支援事業の制度を10.5時間に引き延ばすために、保育の制度を一部組み合わせるというアクロバティックな制度の使い方です。今回は正面から保育園の制度を使って子どもをお預かりできるという制度的な意味では全然違いますが、これが港区でできれば、他の区でもできるに違いないという普遍性を持ちます。そういう意味では全国のモデル事業になる可能性を秘めていると感じます。
【A委員】	色々なお子さんを保育するだけでも難しいと思いますが、そのような難しさの中で保育士の方々がいきいきと毎日の仕事をしていただくために、どのような工夫をすれば良いとお考えですか。
【B事業者】	保育士一人ひとりの子どもに対することだけでなく、自分が仕事に向かうときの意欲ですとか、なぜ保育士になったのかなど、1年目の人たちから中心に困っていることはないか少し踏み込んで細かに面接を行っています。同時に、400人定員の認定こども園の運営で、4クラスの連携を上手くするために、コーディネーターを立てて風通しの良い環境づくりを心掛けています。
【C委員】	看護師と保育士の関係はどのように考えていますか。
【B事業者】	専門性が違うと子どもの捉え方考え方も当然違うと思いますので、職種ごとのミーティングをかなり頻繁に設けており、それぞれ決まったことを合同ミーティングの中で合わせていくということと、それぞれが責任を持つ時間・場をきちんと分けてそれぞれの士気が落ちないように保っていくことで、良好な関係を築いていきます。
【D委員】	危機管理体制における報告について、必要に応じて、重篤な場合は報告というように記載されていますが、そのあたりの考え方を教えていただけますでしょうか。
【B事業者】	一次的には施設で対応することになるかと思いますが、一年間の準備期間の中で改めて行政と協議して、どのレベルで区へ報告するのか、福祉保健局と連携するのか対応マニュアルを構築していきたいと思っています。

【B委員】	職員募集について、提案書類にあるだけではなかなか難しい気もしますが、具体的に何か方策はありますか。
【B事業者】	今回は3者合同ということもあり、専任の採用担当者をつけて取り組まないと思いたいと思います。また、合同の求人ホームページ等で働き方の問題も含めた提示を全国にし、医療ケア児保育に賛同いただける人材を募集したいと思いたいと思います。採用後すぐ退職してしまうようなことを防ぐための働き方改革にも全力で尽くし、保育士の憧れの職場として位置づけられるように努めたいと思っています。法人内で毎年保育園を開所していますが、一度も保育士が不足したことはありませんので、事業者として決まり次第、すぐに対応させていただきたいと考えています。
【A委員】	医療的ケアの保育について賛同していただける方だけでなく、しっかりと勉強されている方達を募集するのではないのですか。
【B事業者】	もちろん、賛同だけでなく、既に勉強されている方についても大歓迎ですが、入った後も学び続けるという姿勢は支援していきたいと考えております。
【委員長】	他に質問はございませんか。なければ質問を終了します。事業者の皆さんありがとうございました。
(B事業者退室)	
(A事業者入室) (プレゼンテーション)	
【B委員】	0～5歳児クラスの副園長2名を含め、副園長の役割等記載はありますが、今の状態はどうなっていますか。
【A事業者】	副園長2名については当法人の認可保育園の主任を務めている者を登用したいと考えております。役割分担については園長代理や安全対策、医療的ケア児・障害児クラス等の分担を想定しているところですが、開設準備に向け、今後も慎重に協議していきます。
【B委員】	不測の事態に備えて提案書の中では具体的に記載いただいておりますが、緊急時、小児科医に協力いただけるよう整備を行う予定とありましたので、そこはしっかり協力いただける確約は取れているのでしょうか。
【A事業者】	今回の医療的ケア児・障害児に関する問題も、小児科医の先生とはこの事業に関してはぜひ一緒にやりましょうという話をしています。何かあったときに病院に行くのはそうですが、普段から定期的に園に来ていただいたり、電話で相談に乗っていただいたり、どのように実施していくか、既に詳細に作成しているところです。
【C委員】	医療的ケア児・障害児について、この職員数で20人見ていくことについてどうお考えですか。
【A事業者】	法人内で小児科クリニック5施設、病児保育施設5施設でかなり経験を積んでいる保育士・看護師がおりますので、経験値の高い職員の採用というところで、このメンバーでできると確信しております。
【E委員】	障害者の雇用について、法定雇用率に達しておりませんが、今後採用に向けての考え方を教えていただけますでしょうか。
【A事業者】	当法人では介護老人福祉施設と認可保育園の運営を主な事業としているところで、専門職の採用が多くなり、障害者雇用率が低くなっておりましたが、現在は障害者の採用活動を積極的に行っており、既に何名か面談を実施しているので、今年度中には達成できるかと思っております。
【E委員】	医療的ケア児・障害児の送迎サービスについて、そのようなお子さんを預かった実績があるということは計画書から読み取れますが、送迎の支援については経験があるのか、あるとすればどのようなシフトでされているのか教えていただけますでしょうか。
【A事業者】	児童に関しては送迎支援を行った経験はございませんが、介護老人福祉施設

【E委員】	<p>の運営もしておりますので、障害のある方などの送迎を行っています。そちらのノウハウをいただいて、事故の無いよう取り組んでいきます。</p>
【A事業者】	<p>独自事業で国際理解教育についてご提案いただいておりますが、医療的ケア児・障害児にも対象としているか、という点と、このような事業を他の園で実施しているかということについて教えていただけますでしょうか。</p>
【A事業者】	<p>全クラスの子どもを対象にしております。本事業の提案の段階で、協力いただけるインターナショナルスクールから色々なプログラムを用意できるとのことでしたので、今回記載させていただきました。</p> <p>既存施設での実施については、英語遊びということで講師を呼び、3, 4, 5歳児が年間 40 回ずつ英語遊びとして歌を歌ったり言語遊びをして毎回楽しんでおります。</p>
【D委員】	<p>元麻布保育園の運営に関して、一番の課題は何だとお考えですか。</p>
【A事業者】	<p>医療的ケア児・障害児クラスと0～5歳児クラスをどのようにバランスよく運営していくかということ、働く保育士もカルチャーが少し違うかと思いますが、そこをどう融合させて運営していくのかという点について課題に感じています。</p>
【D委員】	<p>集団での保育における医療面のサポートについて、御社の強みを教えていただけますでしょうか。</p>
【A事業者】	<p>当法人の最大の強みは、医療法人のバックアップ体制が整っているということだと思います。こちらでは5つの小児科クリニック、5つの病児保育施設、4つの認可保育園で小児医療・子育て支援に力を入れています。元麻布保育園の看護師リーダーには重症心身障害児病棟で実績のある人物を配置し、その他にも中心となる職員はグループの小児科クリニックや病児保育室等から異動配置いたします。</p>
【A委員】	<p>また、今回指定していただいた際には、ここに集まる子どもたちだけでなく、地元の方たちへも子育て支援はもちろんのこと、高齢者施設を運営しているということも活かして介護予防教室や医療法人の専門的な講演会という形で地域へ還元できることが強みだと考えています。</p>
【A委員】	<p>国際理解教育で英語遊びを取り上げたのですが、文化の違うお子さんを受け入れる際に保育士の方が一番大事にしなければいけないことは何だと思いますか。</p>
【A事業者】	<p>文化の違うお子さんを受け入れていくには、まず、保護者との信頼関係を構築していくことによって、この園なら安心して預けられるという気持ちを抱いていただくことだと思います。食文化も宗教によって通常の子と違うものを食べなければいけないお子さんもいますので、給食の担当職員と協力してできるだけみんなと近いものを経験していただきたいと思っています。</p>
【A委員】	<p>文化の違うお子さんを受け入れるための、保育士の研修も非常に大事だと思いますが、研修においてはどのような点を大事にしたいとお考えですか。</p>
【A事業者】	<p>色々なお考えを持った方がいるということをまず私たちが理解しなければならないので、日本の考えを四角くするのではなく、柔軟に考えられるよう、園内研修が主になると思いますが、法人内の外国籍をお持ちのスタッフの方もおりますので、お話を伺うこともできると思います。</p>
【C委員】	<p>医療的ケア児・障害児について、どのようなお子さんが来られるというイメージをお持ちでしょうか。</p>
【A事業者】	<p>今回の公募要項の中で重度のという記載がありましたので、気管切開をしているお子さんや経管栄養のお子さん、導尿を要するお子さん等さまざまなケースを想定しております。</p>
【C委員】	<p>保育士と看護師の連携というのはどのようにお考えですか。</p>
【A事業者】	<p>医療的ケアについては看護師が対応しますが、お子さん個々の体調に応じて保育士から積極的にスキンシップを取入れながら、体調が良いときは0～5歳児クラスに交流に入る等含めて行っていきたいと考えています。</p>

【E委員】	職員配置について、あってはならないですが、何かの事情でそのクラスに入れない場合はバックアップ体制はどのようになっていますか。
【A事業者】	予備保育士ということで、当法人が運営している保育園に比べるとかなり厚い人員配置をしているので、予備保育士を活用してバックアップしていきたいと思っております。
【D委員】	区内中小企業の活用の仕方についてどのようにお考えですか。
【A事業者】	物品の購入や工事等は区内事業者へ依頼することが可能だと思います。シルバー人材センターや障害施設で作っている物を購入させていただくというところで、区内中小企業の活用と考えています。
【委員長】	他に質問はございませんか。なければ質問を終了します。事業者の皆さんありがとうございました。
(A事業者退室)	
(C事業者入室) (プレゼンテーション)	
【B委員】	一体的な施設運営について不安な点や、あるいは注意していきたい点や思いはございますか。
【C事業者】	当法人では、医療的ケアについて保育で取り組んだことがないため、専門的な看護の職員と取り組んでいかなければならないと思います。どの程度のお子さんがいらっしゃって、どのように園全体で取り組んでいくのかというところが課題だと思っています。人数がとても多いので、職員も連携を欠かさずに情報共有を漏らさずに行っていくための検討は必要だと考えています。
【B委員】	専門分野の方に任せてしまうのではなく、一体的にどのように知識・情報を共有していくか、園長として何か方策等ありますか。
【C事業者】	昼礼だけでなく、休憩の時間を合わせて情報を仕入れていくことや、専門の先生が主体となった園内研修で情報共有につなげていければと考えています。
【C委員】	職員体制について、非常に多くの人数がいますが、ここまで必要な理由を教えてくださいませんか。
【C事業者】	有事の際の対策について、車椅子の方や重度の障害の方などが安全に避難するには必ずマンパワーが必要だと考え、危機管理の上ではこのような人数体制が必要だと考えています。
【C委員】	看護師の人数は病院よりも多いということになりますね。病院もなかなかここまでの危機管理体制はないですね。
【C事業者】	補足しますが、公募要項の最大のお子さんを想定して提案させていただいています。当法人が運営させていただくことになった場合は、お子さん一人一人の状況に応じて看護師の人数も変わってくると想定できますので、区と相談しながら配置していきたいと考えております。
【C委員】	医療的ケアのところで臨床心理士の巡回という記載がありますが、具体的にはどのようなイメージを持っていますか。
【C事業者】	現在運営している施設でも実施していますが、障害を持っているお子さんや医療が必要なお子さんにもご入園していただいております。臨床心理士の先生に定期的に4時間程度施設に入っていただき、お子さんの経過観察やこれまで保育士が書いてきた帳票類を見てアドバイスをいただいたりしています。
【E委員】	障害者雇用率を達成できていない点について、採用に向けて活動しておられるということでしたが、今回採用した場合には雇用率は達成されるということでしょうか。
【C事業者】	今月から法人内で既に2名常勤で採用しております。来年の4月にさらに2名採用する予定になっています。来年度、施設の内定者について配属も含めて承諾が得られればほぼ達成できるということで人事課と詰めているところで

【E委員】	経費の積算に関して、本部経費について端的に考え方を教えていただけますでしょうか。
【C事業者】	本部経費を15%取っていますが、主に人の採用に係る本部の人件費です。また、利益で全体経費の7%というのは継続企業として最低この程度は必要かと考えています。
【E委員】	その他経費は何を考えていますか。
【C事業者】	申し訳ございません、後でご返答させていただきます。
【E委員】	では、先ほど受け入れる園児の数によって職員の増減をという話がございましたが、例えば医療的ケア児・障害児クラスの園児が想定を下回った場合は既に採用している職員についてどのような体制で運営していきますか。
【C事業者】	開設までにはまだ期間がありますので、計画を立てて人材確保に努めたいと考えています。また当法人には近隣にも施設が複数ございまして、キャリアアップの一環で、異動も含めて動かすことができますので、上手く対応できると思います。
【E委員】	今の経費で積算していただいているのは上限で、状況に応じて協議をする気持ちはあるということですか。
【C事業者】	そうですね。ただ、今回これだけの施設でお子さん一人一人の命が大事だということもふまえ、よりスキルの高い正規の職員で確実にフルで勤めていただける方が安全性を担保できるのかなと考えております。柔軟に対応する考えは持っておりますので、区と協議しながら進めていきたいと考えております。
【D委員】	危機管理についてお話がありましたが、では平常時何人なのかということになるが、あくまで必要な人数という意味合いでよろしいですか。
【C事業者】	はい。あと、今回は休日保育も行っていくということで提案させていただいておりますので、どうしても休日保育でも通常の保育と同じような配置をするべきと考えておりますのでこのような配置となっております。
【D委員】	提案書類の中では障害児の受入実績はダウン症の方のみというように読めましたが、これで合っていますか。
【C事業者】	その他にも障害の方の受け入れ実績があります。
【D委員】	コスト意識も重要だと思いますが、効率的・効果的な管理運営について大括りに記載されておりますので、具体的にどのような観点で取組をされていくか、工夫があれば教えていただけますでしょうか。
【C事業者】	当法人では以前から保育と介護を行っており、その中で今回の施設の近隣にも訪問看護ステーション等ございます。また、保育所では都内で50か所程度運営していますが、元々提携してきた小児科医のネットワークを使って求人依頼をしていく等、様々な人材の共有によって効率化できるのではないかと考えております。
【D委員】	準備経費について、必要性や積算の考え方を教えていただけますでしょうか。
【C事業者】	やはり最も経費がかかっているのは人件費だと思っております。考え方としてはこれだけの施設で準備期間にスタッフを早めに確保して、既存園やコネクションのある施設で実務的な研修を受けさせる等、人件費が大きくなっています。
【A委員】	医療的ケア児・障害児保育は新しい分野ですので、研修は大事かと思いますが、そのように考えていますか。
【C事業者】	保育士はできる行為が決まっておりますが、技術については東京都福祉保健局の研修を受けたり、法人の看護師を中心に今のケアについて事前に情報収集し、学んでいきます。医療技術以外の一般的な救急対策や疾患の知識は園内外の研修を設けて早めに進めていきたいと思っております。
【A委員】	全体を統括する園長としてどのような点を大事にしたいと考えていますか。
【C事業者】	個々のお子さんの個性に応じたものを子どもたちが目の当りにすること、色々な人が育っていて、生きているということを学べるいい機会でもあると思いますので、人とのつながりを大事に生活し、生きる力となる保育ができれば

<p>【事務局】</p> <p>【委員長】</p>	<p>いいなと考えております。</p> <p>その他経費について事務局が提案書を確認したところ、送迎支援の費用として、人材委託が約 864 万円、駐車場料金が 277 万円、車両リースが 237 万円、トータル 1,378 万円となっています。</p> <p>他に質問はございませんか。なければ質問を終了します。事業者の皆さんありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">(C事業者退出)</p> <p>(審査集計)</p> <p>それでは、各委員から講評をお願いいたします。</p>
<p>【B委員】</p>	<p>B事業者を1位にしています。</p> <p>A事業者は、書類の評価は高かったです。</p> <p>B事業者は、課題としての投げかけに対して、今回初の試みであることをしっかり理解して伝えられており、事業者の代表者がフォローしながら、代表法人の方もきちんと中身を理解されていたので高く評価しました。</p> <p>C事業者は、自社の提案内容についてよく理解していなかったです。</p>
<p>【C委員】</p>	<p>B事業者を1位にしています。</p> <p>B事業者は、医療的ケア児・障害児について経験と実績からしっかりと受答えができていたと思います。</p> <p>A事業者は、もう少し医療的ケア児・障害児に対する理解があれば良かったと思いますが、経験の有無ではなく、これから経験を積んでいくという姿勢が見られたのは良かったと思います。</p>
<p>【E委員】</p>	<p>A事業者を1位にしています。</p> <p>C事業者は、自社の提案内容を理解できておらず、少し信頼に欠けるかなと思います。職員体制も当然いればいるだけということになりますし、臨機応変というの聞こえはいいですがしっかり精査してくれるのかという不安が残りました。また医療的ケア児を受け入れた実績がないということから、実際の運営できちんと回るのか、連携について見えづらかったかなと思います。</p> <p>A事業者は、医療面のサポートが受けられるということは非常に魅力的でした。保育園運営については読み取りづらいところがあったと感じました。</p>
<p>【D委員】</p>	<p>A事業者が1位でした。</p> <p>C事業者は、提案内容への問いに答えられないところと他の部分の受け答えも弱かったように感じたので、どうしても低く評価せざるを得なかったです。</p> <p>B事業者は、書類の作りは雑な印象でしたが受け答えの方はしっかりしていたと思います。ただ、共同事業体としての強みも言っていましたが、不安な弱みも口走っていた場面があって、そこが実は本音なのかなと少し弱く感じました。</p> <p>A事業者は、やはり初めての取組ということもあり、医療面のサポートを評価しました。</p>
<p>【A委員】</p>	<p>A事業者とB事業者が同点1位でした。</p> <p>C事業者は、書類では保育に対する思いが一番よく伝わってきたのですが、実際に聞いてみると伝わるものが弱かったのが不安でした。</p> <p>A事業者は、実績のある人物の配置で安定感があり円滑に開設準備を進められると思いました。園長の受け答えもしっかりしており、安心して任せられるのではないかと思います。</p> <p>B事業者は、医療的なケアでの実績は良いと思いましたが、圧倒的な人数に</p>

<p>【委員長】 【事務局】</p>	<p>対する保育の姿勢が固まっていなかったような印象でした。 各委員からの講評は終わりました。 点数の確定ということで報告させていただきます。 二次審査につきましては、障害児保育で実績のあるB事業者が450点で第1位、A事業者が435点で第2位、C事業者は提案内容を十分に把握できておらず、405点で第3位と確定させていただきました。 総合順位につきましては、総合得点で申し上げますと、第1位がA事業者で一次審査872点、二次審査435点で合計1,307点、第2位がC事業者で一次審査874点、二次審査が405点で合計1,279点、第3位がB事業者で一次審査791点、二次審査450点で合計1,241点となりました。 一次審査の結果が、第二次審査で逆転し、トータルとして平均的に得点したA事業者が1位となりました。</p>
<p>【C委員】</p>	<p>以前のお話にもありましたが、今回港区で初めての試みですし、とても先駆的な事業だと思います。どの事業者となっても今後区と連携しながら運営してほしいと思います。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>それではこのとおり決定してよろしいでしょうか (全員承認)</p>
<p>【委員長】</p>	<p>議題2 指定管理者候補者の決定について それでは、1位のA事業者を指定管理者候補者、C事業者は次点として決定してよろしいでしょうか。 (全員承認)</p> <p>それでは、当委員会では港区立元麻布保育園の指定管理者候補者を「A事業者」に決定いたしました。(結論)</p> <p>今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いいたします。 (事務局説明)</p>
<p>3 閉会</p>	